

2020 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	濱田 幸子
研究テーマ	『伊曾保物語』の江戸時代における受容
研究概要	『伊曾保物語』の寓話部の中で、どのような寓話にどのような教訓が添えられているのかを見ていくことで、賢人イソポの物語である『伊曾保物語』がどのような教訓書として江戸時代に受容されていたのか考察していく。また、江戸時代の書物の中で、『伊曾保物語』の寓話が多数取り入れられている『絵入教訓近道』における『伊曾保物語』の受容についても考察する。

1. 研究活動の概要と研究成果	『伊曾保物語』が刊行当初から出版され読み続けられている理由の一つとして、冒頭から「伊曾保（イソポ）」という賢人の物語（一代記）という形で作られていること、そして、これは日本の編集者の手による作為であろうことを2019年度明らかにした。当初の研究予定ではなかったが、それに引き続き、2020年度はさらに『伊曾保物語』伝記部に見られる矛盾点を『イソポのハブラス』と比較し、その原因を明らかにすることで、『伊曾保物語』の編集者（制作者）は古代オリエント及びギリシャの知識のない人物、つまりキリシタンからは距離を置いた日本人であろうことを明らかにした。本来の研究題目である「『伊曾保物語』の江戸時代における受容」は次年度続けていく予定である。
2. 学術論文・学会発表等	学術論文「『伊曾保物語』伝記部に見られる矛盾についての考察」『佛教大学総合研究所紀要』第28号、pp. 17-29、佛教大学総合研究所（2021年3月、査読有）
3. 今後の課題	<p>今後の課題は、『伊曾保物語』の寓話部の中で、どのような寓話にどのような教訓が添えられているのか、また、江戸時代には、どのような書物の中に『伊曾保物語』の中のどのような寓話が引用されているのかを見ていくことで、賢人イソポの物語である『伊曾保物語』がどのような教訓書として江戸時代に受容されていたのか考察することである。特に、江戸時代の書物の中でも、『伊曾保物語』の寓話が多数取り入れられている『絵入教訓近道』における『伊曾保物語』の受容について考察していく。</p> <p>さらに、江戸時代に新たに出てきた公事物語（裁判評定の物語）への『伊曾保物語』の影響についても考察していきたい。</p>